

3) イサザの仔稚魚の分布

酒井明久・遠藤 誠

【背景】イサザは琵琶湖漁業において重要魚種のひとつであるが、近年漁獲量の減少が著しい。

【目的】イサザの増殖方法を考えるにはイサザが生まれて資源へ加入するまでの過程を詳しく知る必要がある。しかし、イサザの仔稚魚の分布や初期餌料など不明な部分が多い。そこで、イサザ仔稚魚の分布を把握することを目的として調査をおこなった。

【成果概要】

(仔魚調査)

1. 1995年5月19日、5月31日および6月5日に主要な産卵場である海津大崎の沖合いにおいて仔魚の採集を実施した(図1)。仔魚の採集には直径570mm、メッシュサイズGG58(目合い300 μ m)の丸形稚魚ネットを2網並列に連結して使用し(図2)、表層あるいは中層を10分間(曳網距離400m)曳網した。
2. ハゼ科の仔魚は29個体採集された。このうちイサザ仔魚は5月19日の6個体のみで(表1)、これらの標準体長は2.7~3.4mmであった。

(稚魚調査)

3. 1995年7月14日~8月3日に塩津湾、彦根沖、沖島沖の水深10m、20m、30mおよび40mの4地点で稚魚の採集を実施した(図1)。稚魚の採集には小型の底曳網を使用し、1地点につき1回曳網(ロープ長300m)した(図2)。
4. イサザの稚魚はおもに水深20~40mで採集され(図3)、標準体長は15.3~26.6mmであった。1網当たりの採集尾数は産卵場の沖合いである塩津湾、沖島沖で多かった。

【成果の活用】仔魚の採集が困難であったことから産卵場周辺において詳細な調査を行い、仔魚の沖合いへの分散過程を把握する必要がある。

表1 イサザ仔魚調査結果.

日	時刻 ^{*1}	調査地点 ^{*2}	曳網水深 (m)	仔魚採集尾数				
				イサザ	ウキゴリ	ウキゴリ属	未特定	その他
'95 5/19	11:12	SE, 600m	8	2	0	0	0	3
	11:38	ESE, 700m	8	0	0	0	0	0
	12:24	E, 100m	9	1	0	0	0	0
	13:39	SE, 100m	8	0	0	0	0	0
	14:01	NNW, 150m	8	2	0	0	0	0
	14:27	W, 400-800m	2.7	1	0	1	0	0
	14:59	SE, 600m	2.7	0	0	0	0	0
	5/31	10:32	E, 50m	1	0	0	1	4
10:49	SE, 100-500m	1	0	0	0	3		
11:07	W, 200m	1	0	1	0	0		
11:29	W, 200m	5	0	1	0	5		
11:55	E, 50m	5	0	0	0	0		
6/5	10:31	SE, 500m	6	0	0	0	1	
	10:59	SE, 600m	1.3	0	0	0	0	
	11:25	SE, 700m	2.6	0	0	0	0	
	11:53	SE, 800m	4.1	0	0	0	0	
	13:49	ESE, 100m	7	0	0	0	0	
	14:15	ESE, 100m	1.3	0	0	0	1	
	14:40	SSE, 1,200m	1.4	0	0	0	0	
	15:00	SSE, 1,200m	9	0	0	1	1	
	15:22	SE, 1,700m	2.7	0	0	0	0	
	15:48	SSE, 2,100m	4.5	0	0	0	0	

*1 曳網開始時刻(曳網時間:10分間).

*2 海津大崎からの方向と近接した岸からの距離.

仔魚調査区域

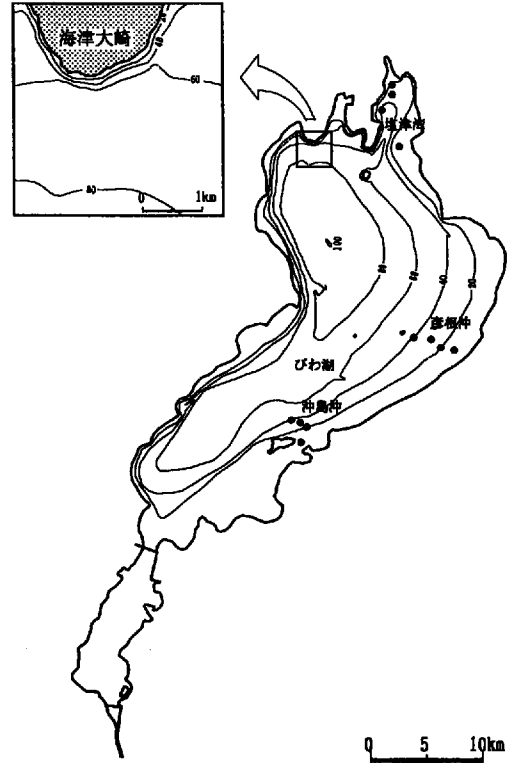


図1 採集地点.

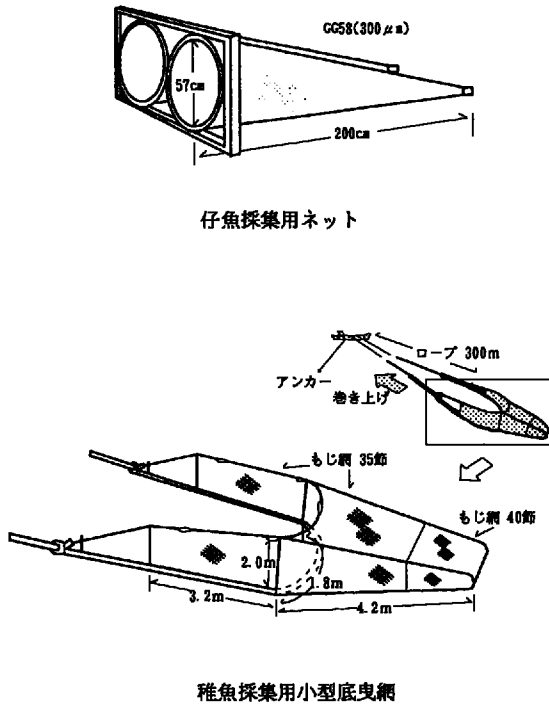


図2 イサザ仔稚魚採集用具.

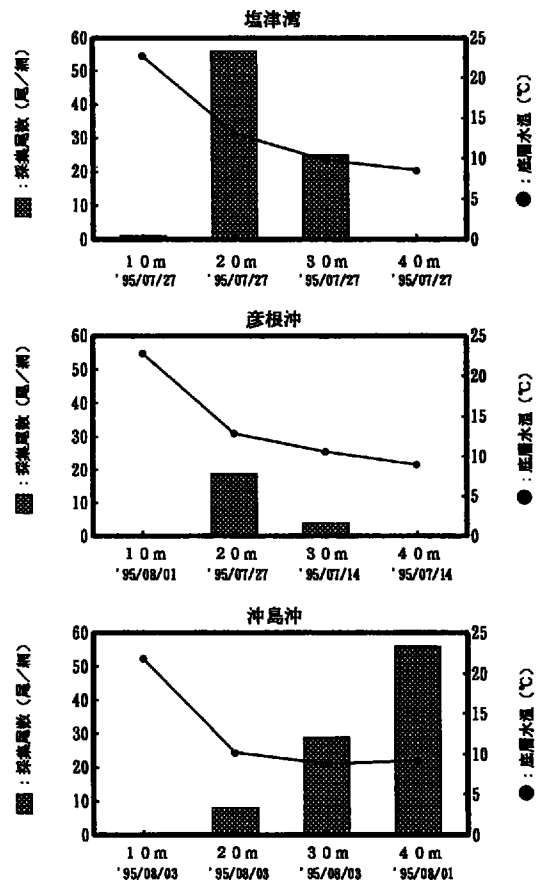


図3 イサザ稚魚採集尾数と底層水温.